

低温下で単為結果性を有する高収量・高品質ナス系統の育成



写真1 試交系統の着果状況

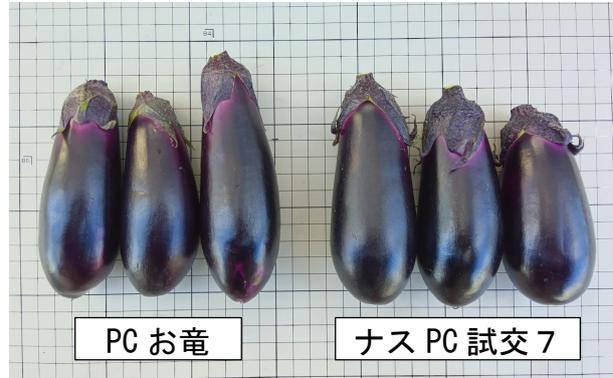


写真2 試交系統の果実

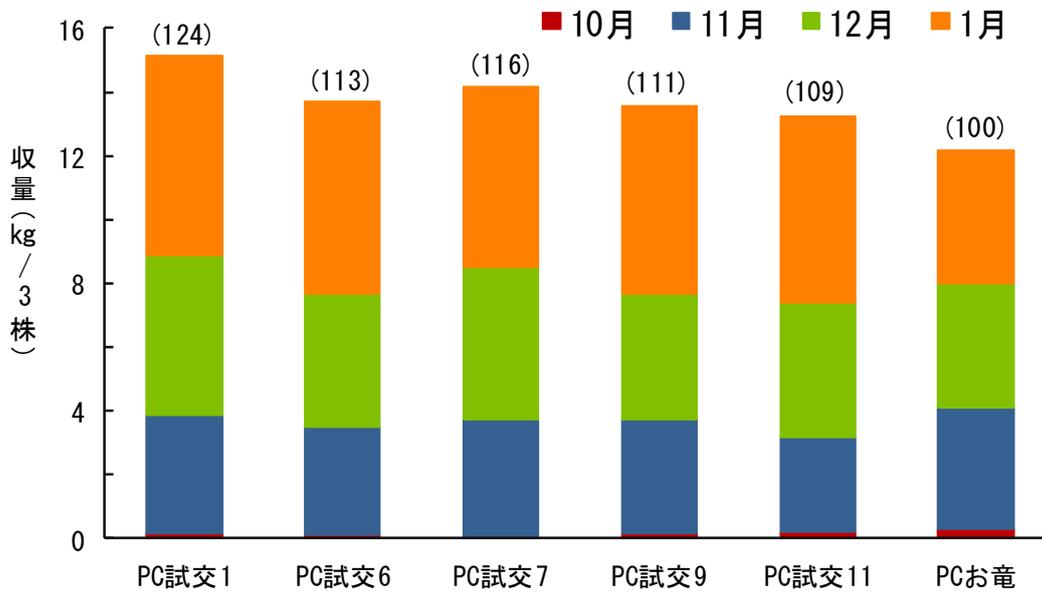


図 試交系統の月別収量 (kg/3株)

園芸育種担当では、令和5年度から最低夜温10℃程度の低温下でも、収量・品質の優れた単為結果性「高知なす」品種の育成に取り組んでいます。ここでは、現在育成中の試交系統のなかから、生産力検定で収量が多かった系統について紹介します。

今年度は、これまでに育成したF₁試交13系統の生産力検定を実施しています。定植は9月下旬、第1～2果はトマトトーン処理を行いました。10月中旬以降はいずれの系統も、処理無しで着果しています(写真1)。

試交系統の果実はいずれも長卵形で「PCお竜」より短く、光沢も優れます(写真2)。このうち、1月末までの可販果収量が多かったPC試交5系統を一次選抜しました(図)。

現在、これら5系統の生産力検定を継続しており、今後、これらのなかから収量・品質の高い系統を選抜します。また、今回の結果をもとに、より収量や品質の高い、単為結果性「高知なす」品種の育成を進めていきます。

(園芸育種担当 岡田昌久・長岡優佳
088-863-4916)